

大都市高教組青年部集會に参加して

東分會 屋宜宣隆

「大都市高教組青年部学習交流会」の学習会では、はじめに各都市の先生方の自己紹介を行



「大都市青年部交流会」 「ワールドワーク」報告

10月1日、大都市青年部交流会2日目のワールドワークが行われました。ワールドワークのテーマは「関東大震災から百年」――震災から百年たつて、街はどう変わったか、震災のことは百年後どのような形で残っているのかをねらいとしました。

馬車道駅を出発し、神奈川県立博物館、開通合名会社（日本人商社）の煉瓦遺構、山下居留地遺跡（神奈川県芸術劇場の南東側）、旧横浜居留地48番館、開港記念資料館のたまくすの木、象の鼻防波堤、ホテルニューグランドを回りました。回つてい

る最中は、それぞれが各都市の話や雑談で盛り上がり、前日に引き続き交流できました。普段何気なく目にしてる風景も、知らないだけで当時の形のまま残っているものや、後世へ伝えるために保存しているものが様々あり驚きました。関東大震災からちょうど百年、地震は私達の身近なものです、いつ起きるかわからないものです。今回のワールドワークで、過去の出来事として風化させてはいけななと感じました。

（Y別分會 天野靖子）

その後、①横浜市立高校初任者の初回異動について、②青年層の組合加入率・組合加入の意義について、③観点別評価について、の3点の話題提供を横浜市として行なった。①については、他都市では組合で「異校種異動はないですよ」と強く申し入れを行なっているという。

今年度の学習会では、横浜市で起こっている問題点を通して、他都市との共通点や工夫している点などを学ぶことができ、非常に有意義な会にすることができたと思う。

「子ども各界連」 秋の署名スタート集會

木立敏樹

九月十八日十三時三十分より市従會館三階會議室において、子どもを守る横浜各界連絡会の署名スタート集會「署名活動推進のための学習講演会」が開かれ、会場参加二十九名、ズーム参加十三組で行われました。

開會あいさつの後、横浜国立大学の金馬国晴教授による記念講演「コロナ後の子どもたちとどう向き合うか」がZOOM形式で行われました。「コロナ禍で子どもの体はどう変化したか。それを乗り越えて子どもが豊かに育っていくためには何が必要なか」が語られました。

▼コロナ禍は首相による緊急事態宣言のもと、法的権限のない要請により一斉休校がなされた。学校側では十分な準備もありませんでした。オンライン授業への切り替えが行われた自治体、学校もあったが、その有無、頻度はバラバラであった。一部では経産省が文科省に先行して提案した個別化された学びであるソサエティ5.0をめざすGIGAスクール構想を乗的に前倒しで進める傾向もみられた。日本におけるコロナ禍は一九九一年から学習指導要領

に謳われた新しい学力観（「関心・意欲・態度」重視の授業形態・評価方法、ノート点検・挙手点検・忘れ物点検・チャイム着席、内申書・調査書の重視、推薦入試・AO入試）と絡んで「おとなしい・保守的・意見がない」若者を産むことになった。恐いのは、求められるように「自動的に」心も身体も動くことである。コロナ禍前後で最も変わったものにコミュニケーションの変化が挙げられる。一斉休校で人と人との関係を作ることが減った。マスクで表情が見えなくなった。オンライン会議で遠方の人とも片手間で交通費や時間をかけずに連絡できたが、質的には劣化した。家庭の経済や熱心さの格差によってデジタル機器の有無が異なり、コミュニケーション格差につながった。人と関わる意欲が低下した。（以上、講演内容。）

さよなら原発一〇〇〇万人集會 「つたみのミライ」 イベント&パレード

大山澄子



9月には、毎年「さよなら原発一〇〇〇万人アクション」の集會が行われてきました。今年の集會は、さよなら原発一〇〇〇万人アクションの団体と「Fridays For Future Tokyo」と「つたみのミライ」の主催で上記の表題でパレードとイベントが9月18日（敬老の日）に開催されました。

テームトーク1は、「原発問題・気候危機とどう向き合うか」でした。そこで「不耕起栽培」という言葉を初めて聞きま

